

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 3 月 22 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	勅使河原 隆行
研究課題	地域共生社会に関する研究 ～ソーシャルワークの視点を踏まえて～				
研究キーワード	地域共生社会、ソーシャルワーク	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2022 年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で様々な制限を受けてきた。年度末が近づくにつれて徐々に制限が解除されてきたが、2022 年度前半（7 月 1 日～9 月 30 日）は、第 7 派の影響で出張やフィールドワークといった研究活動が一部制限を受けるなど、当初の計画どおり研究が進まない部分もあった。特に本研究では、フィールドワーク調査や大学生による支援活動を実施するという手順で研究を進めることを計画していたため、新型コロナウイルスの影響はとて大きかった。しかし、このような状況下でも文献調査やオンライン上でのインタビュー調査を実施してきた。なお、このオンライン上でのインタビュー調査は日本国内だけではなく、台湾国立中正大学の呉啓新副教授の協力を得て台湾でも実施した。</p> <p>このコロナ禍は、感染者に対する差別や偏見による地域の分断、雇用機会の喪失により労働者の失業による生活困窮などが生じ、地域社会や人々の姿を大きく変化させてしまった。全国各地でコミュニティが崩壊し、地方においても過疎化だけではなく地域経済の崩壊など様々な問題が派生している。本研究では、これらの研究結果から得られた知見により、地域住民と大学生が共同で商品開発を実施するなどの新しい方策にも取り組んだ。</p> <p>これらの成果を踏まえ、引き続き 2023 年度以降もソーシャルワークの視点による地域共生社会に焦点を当てて、地域共生社会の実現に向けた方策を探ることを目的とした研究を継続して実施したい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書】</p> <p>「はじめての人間社会学〈第 2 版〉：現代社会と SDGs」千葉商科大学 人間社会学部（編集）、2023 年、中央経済社、共著。担当箇所は第 7 章である。</p> <p>第 7 章 現代における地域社会と地域福祉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会と地域福祉の理解 2 商品開発を通じた地域福祉の推進の事例 3 地域福祉の課題 <p>「ソーシャルワークの理論と方法（社福専門）」柳澤孝主・増田康弘（編）、2023 年予定、弘文堂、共著。担当箇所は第 8 章である。</p> <p>第 8 章 ソーシャルワークの総合性と包括性</p> <p>非常時・災害時支援の実際</p>					

3. 主な経費

研究のために使用する各種消耗品、学会年会費などに、適正に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【国際研究活動】

- ・台湾国立中正大学社会企業研究センター 副センター長

【学会活動】

- ・日本共生社会推進協会（学会組織） 副理事長
- ・日本福祉図書文献学会 関東支部長・理事

【メディア掲載】

- ・読売新聞
- ・毎日新聞
- ・千葉日報
- ・福祉新聞
- ・千葉テレビ
- ・CATV296

(本文は2ページ以内にまとめること)